

第8回三保松原景観改善技術フォローアップ会議 会議概要

日 時	令和4年3月24日（木）13：00～14：30
場 所	静岡総合庁舎7階第8会議室
議 事	I. 検討事項 1. 2号新堤の設置位置と構造 2. 令和3年度のモニタリング結果 II. 報告事項 1. 事業実施内容 2. 事業実施スケジュール
配布資料	【会議資料】 ・議事次第、委員出席名簿、座席表 ・三保松原景観改善技術フォローアップ会議 設立趣意 ・三保松原景観改善技術フォローアップ会議 設置要綱 ・清水海岸三保松原景観改善の取組の経緯 ・第8回三保松原景観改善技術フォローアップ会議資料 ・清水海岸高潮対策事業概要図

<議事概要>（○：委員、●：事務局）

I. 検討事項

1. 2号新堤の整備における今後の検討事項

(1) 三保飛行場周辺でのサンドリサイクル土砂採取法について

- 海上施工の場合、仮設土留めの設置は行わないという理解で良いか。また、陸上施工の場合、クレーンのような垂直に切り立つ重機が入るのか。
- 海上施工では、仮設土留めの設置を考えていない。陸上施工では、施工規模により大型なクレーンが必要な場合もあるが、必要ない場合もある。
- 工事期間や頻度をあらかじめ観光客や地域向けに情報開示することが大事である。工事の施工状況が、富士山の眺望価値に影響を与える可能性がある。
- 羽衣の松からまっすぐ海に出ても富士山は見えない。ただし、富士山が見える場所に移動したときに、工事現場が見える可能性がゼロではないので、工事情報の開示など丁寧に対応していきたい。
- 「現採取量5万m³/年の実施では掘削箇所の地形の回復は確認されている」と記載されているが、掘削箇所の地形は元に戻っているのか。
- 現在の採取箇所は、陸上からT.P.+3m～+1mであり、採取後、暫くすると波の作用により土砂が打ち上がり、概ね同じような地形に戻ることから、その部分から土砂を年間に何回も繰り返して採取し5万m³を確保している。
- 断面図で見ると大量の土砂が沖に落ちており、これではリサイクルではないため、うまく採る方法を考えてもらいたい。

○現在採取している箇所土砂量は、落ちている量と比べて少ない。落ちる量を少しでも減らせるよう工夫が必要である。

(2) 2号新堤の建設について

○2号新堤の設置位置は、1号突堤と条件が異なり、海底地形も違っているため、養浜盛土の基本原則は、2号新堤の位置や性能に応じたものに若干、軌道修正しても良いのではないかと。

●今回の検討の結果、現在の基本原則に基づく施工では、養浜スペースの確保が厳しい状況であることがわかった。視点場についても1号突堤とは変え、鎌Bにより評価し、状況に応じた養浜盛土を検討していきたい。

2. 令和3年度のモニタリング結果

○サンドボディが1年で約100m進行したと書いてあるが、土砂を注入しており、自然的要因の進行でない。サンドボディが進行したのではなく、埋めただけではないかと。

●実際にはどちらかという確認が取れていない。ただ、以前のサンドボディの進行が遅れているという指摘から、多くの養浜材を投入しており、推定するとその影響の方が大きいのではないかとと思われる。要因やメカニズムについて、また相談させていただきたい。清水海岸全体の侵食対策について、どういう形で行っていく必要があるかということを引き続き検討していきたい。

○「サンドボディ」という言葉を使わない方がいい。養浜土砂が流出していませんと言えればいい。長期的には安倍川の土砂が流れていくことを目指すと言っている以上、流れていく阻害要因に離岸堤がなっているとすると、その機能をどう変えていくかということも議論する必要がある。

○午前の現地視察の感想として、台風が来ない場合、こんなに土砂は流れないのだと驚いた。その結果、養浜土砂の置き場所に困ることになる。ただ、大きな台風の来襲に対応できるように、体力を付けるという意味では、やり続けるというのは大事だと感じた。

○高波浪により養浜土砂が流出した時、トラック輸送で元に戻す際には、どのくらいの時間がかかるのか。

●これまでの実績から1か月で1万 m^3 くらい養浜ができる状況にあるので、現状に戻すには3～4か月必要である。

II. 報告事項

1. 事業実施内容

- ・特段の意見無し。

2. 事業実施スケジュール

- 来年度の終わりに開催する会議では、何を議論するのか。
- 海上浚渫をした場合、どのような方法でどういった影響があるかということを見極める検討を行い、その結果を次回のフォローアップ会議でお示し、再来年度以降の実施につなげていきたいと考えている。
- 大きな波が起こった場合、令和4年度の会議で議論するのか、別に会議を開催するのか。
- 緊急で対策の検討が必要な場合、技術検討ワーキング部会などを緊急的に開催し、対応を協議したいと考えている。
- 1号突堤は出来てしばらく経っているので評価を行い、ここは大丈夫、ここは改良の余地があるなど議論した方がいい。
- 今まで検討の経緯は文化庁に報告しているのか。
- この景観改善の取組については、富士山世界文化遺産の包括的保存管理計画に位置づけられている。毎年のフォローアップについても県の担当部署でとりまとめた上で評価し、数年に1回の審査に諮っている。
- 新しい施設に関しては、コストもチェックすべき。
- ベネフィットの方も観光ということになるので、コロナの影響が大きすぎて現在何も言えないが、少なくともやったことを利用者がどう評価し、どのように感じているかを結果として反映するべきである。観光に関する評価とコストとの兼合いは、いずれまとめて議論するべき。
- 次回開催時は、入札まで終わってる可能性があるため、どんなものがどこに出来そうなのかをもう一度確認したい。今ある1号突堤の横堤と高さや見栄えが似たものができるという理解で良いか。
- 来年度から整備に着手する2号新堤（南）は、有脚式の離岸堤の形式である。設置位置の南側にある1号突堤の横堤と同じような構造物であるが、有脚式にも色々なタイプがあるので今の上ののっているブロックと全く同じになるかはわからない。基本的に高さは同じ T.P.+1.5m とする。
- 縦堤は全くなしで大丈夫なのか。
- 縦堤なしでも、1号突堤の経験と午前の現地視察の感じでは大丈夫であるが、養浜確保の努力とセットだと思う。

- 横堤の奥行を2割減らして平面的に薄くして同じ機能ならば、コストが安くないか。
- 1号突堤を検討した経験では函体を薄くするのは厳しい。
- 事業者に対してどういう項目を提示するかについて、リクエストを聴取するプロセスは想定されていないのか。
- 発注時に、別途審査委員会を設け、要求する高さや構造、基本的なことを決め、周辺景観との調和などの提案を求める項目について決めていく。技術提案を行う施工業者を審査しながら受注者を決めていくことになる。
- 2号新堤というタイトルで入札が進むとそれだけしか見ないのでという心配がある。今回は景観改善からスタートしているので、既存の羽衣や鎌の視点場から1号突堤を含めた提案書をお願いしたい。1号突堤と周辺盛土も含めた形で提案する2号新堤が、景観的に収まるかということを図面に表現してもらいたい。
- 頂いた御意見を踏まえ、発注時に見定める提案を求める項目について、周辺環境との調和について検討していきたい。
- できれば岡田先生にアドバイザーとして審査委員会に入ってもらおうと良い。景観的な問題が出てきた時には岡田先生に相談したら良いのでは。
- 審査委員会を来年度設置していくことになるので、委員選定については、御意見をふまえて進めていきたい。
- 1号突堤で施工した同じ業者であれば、構造物は同じ形になる可能性があるが、それぞれ求めている性能の話なので、デザインが変わってくるということがあり得る。コントロールすべきだという話になるとなかなか事務局も難しいのではないか。
- 入札の制約上、性能を規定してこれと同等のものを造れる者は誰でも手を挙げて良いということになるので、若干見栄えが違う可能性はあるが、場所・高さ・基本構造などは、大幅には変わらない。

以上